ひょうご野生動物保全管理国際シンポジウムを終えて

アジア太平洋地球変動研究ネットワーク（APN）センター
センター長　　辻原　浩

8 月 1 日兵庫県公館において「ひょうご野生動物保全管理国際シンポジウム」を開催し、約 300 名の方にご参加をいただきました。アンケート結果を見ますと、神戸市内在住の方にとどまらず、市外、兵庫県外からも多くの参加をいただけたことがうかがえます。ご講演者も実に多彩で、ヨーロッパ、アメリカ、アジア、そして兵庫県において野生動物管理の第一線でご活躍されている専門家をお迎えし、各地域の現状と管理対策についてご講演をいただきました。まずは、ご参加いただいた皆様、ご講演者の皆様、シンポジウムの主催者でありイベントを中心的に準備・運営された兵庫県森林動物研究センターの皆様に深くお礼申し上げます。

私ども APN も主催者として本シンポジウムに参加しました。APN については、ご存知の方も限られると思われますので、この場を借りて、簡単に説明させていただきます。APN は、アジア太平洋地域の政府間ネットワークであり、1996 年、当該地域における「地球変動に関する共同研究の支援」、「主に発展途上国の科学者及び政策立案者の能力開発」、「科学者と政策立案者の交流促進と政策決定に対する科学的知見の反映」などを目的として設立されました。現在このネットワークには、シンポジウム講演者の出身国でもあるアメリカや韓国を含む 22 ヶ国が加盟しています。「気候変動」、「生態系・生物多様性」、「大気・陸域・海洋の変動」などの研究領域を支援対象としており、2015 年度からの第 4 期戦略計画では、新たに「適応、レジリエンス」も対象として加えました。本シンポジウムの開催に際しては、鳥獣害はじめ野生動物に関する問題の要因の１つに地球温暖化を含めた気候の変化（兵庫県でも北部の雪の減少による越冬個体数の増加など）が挙げられること、また、それに伴い森林下層植生の衰退、野生動物活動範囲の変化など生態系システムへの影響も考えられることから、我々が取り組むべき事業として参加したものです。

シンポジウムでは、マルコ・アポロニオ教授及び李宇新教授から「イノシシの活動分布の拡大に気候変動が与える影響」についての言及がありました。また、アポロニオ教授とマーク・スミス准教授からは、イノシシやノブタを媒体とする伝染病の拡大リスクに関しての説明がありましたが、気候変動がもたらす直接・間接的な影響として非常に興味深いものでした。気候変動や温暖化が及ぼす陸域及び海洋の野生動植物への影響に

ついては、IPCC 第 5 次評価報告書の中でも触れられているとおり、それによる影響が最も大きなものの１つであり、今後さらなる研究が必要だと考えています。また、アポロニオ教授からは、イノシシ分布拡大に関する他の要因として、都市への人口の流出によって、地方の農村環境の維持が出来なくなったことも挙げられました。APN では昨年度から「兵庫県の里山・多様性の保全」にかかるシンポジウムやワークショップを実施しています。その講演や議論の中では、広葉樹の保全や炭を利用した循環システム、エコ農業など“植物”に焦点があてられることが多いのですが、里山の維持が“動物”に与える影響についても、改めて考え直す機会となりました。

兵庫県が策定した第 4 次環境基本計画の中で「人間社会と自然の共生」が重要な目標の１つとしてあがっていますが、本シンポジウムでは特に都市部の人間社会と自然界の共生の難しさが明らかとなりました。自然との共生とは単に動物を愛護することだけではないということが示唆されました。最後のプレゼンテーションにおいて、横山真弓准教授から六甲山におけるイノシシの管理について報告がありました。プレゼンテーションは、その後のパネルディスカッションへとつながり、他の講演者から、兵庫県森林動物研究センターが現在進めている管理方策が正しい方向に進んでいること、また、野生動物の管理は社会的・文化的問題であり、特に地域住民の野生動物に対する意識改革（餌付けをしないことなど）が非常に有効な手立てであることなどが確認されたことは、本シンポジウム開催の大きな成果でありました。

シンポジウムを開催して改めて気付きましたのは、イノシシをはじめとする野生動物の保全と管理の課題は、兵庫県や日本特有のものではなく、非常に似たような形で世界各地に顕在しているということです。その対策については、今後、世界の研究者と情報交換を行いながら実施することが大変重要であり、今回のシンポジウムの開催が兵庫県におけるこの国際的な取組の第一歩になれば大変喜ばしいことです。また、本報告書が、野生動物管理保全に関わる多くの人々にとって、一助となれば幸いです。

責任編集者　横山　真弓
編集者　今榮　博司
畑　一志
松金（辻）　知香
山根　隆二朗

国際シンポジウム及び本報告書に掲載の発表データや画像等の著作権は各講演者と共同研究者に帰属しています。各講演者に許可のない複製を禁止します。

兵庫県森林動物研究センター
兵庫ワイルドライフモノグラフ　8号
なぜイノシシは都市に出没するのか？
2016年3月30日　印刷
2016年3月30日　発行
編集・発行　兵庫県森林動物研究センター
〒669-3842　兵庫県丹波市青垣町沢野940
印刷　　きくもとグラフィックス株式会社

27農 Ⓣ 1-002A4

兵庫県森林動物研究センターシンポジウム　｜　第5回国際野生動物管理学術会議サテライトシンポジウム

なぜ イノシシは 都市に出没 するのか？

International Wildlife
Management Congress
Satelite Congress
in Kobe, Hyogo
JAPAN
2015

～世界のイノシシ管理から学ぶ～

近年、
イノシシなどの野生動物が
市街地や都市部に侵入することが
日本各地で増加しています。
神戸でもイノシシが市街地に出没し、
被害が深刻化しています。
なぜこんなにも人の生活圏にまで
侵入してくるのでしょうか？
今後どのような対策が必要なのでしょうか？
日本だけで起こっていることなのでしょうか？

本シンポジウムでは、
イノシシとの共存について、
ヨーロッパやアメリカ、アジアの現状と対策から
国際的なイノシシの保全管理を学び、
これからの兵庫県での取り組みを考えます。

参加無料・要予約　市民向け公開シンポジウム（同時通訳付き）です。

日時：2015.8.1(土)　13:30～17:00(受付12:30～)

場所：兵庫県公館 1F 大会議室

定員：300 名
主催：兵庫県森林動物研究センター・
　　アジア太平洋地球変動研究ネットワーク (APN)
共催：第 5 回国際野生動物管理学術会議・神戸市・兵庫県立大学
後援：環境省近畿地方環境事務所・農林水産省近畿農政局・
　　農林水産省近畿中国森林管理局・「野生動物と社会」学会
協賛：(株) 野生動物保護管理事務所・(株) 一成・(株) ニュージェック・
　　(株) 地域環境計画
予約方法：裏面申込用紙をご利用のうえ、FAXにてご予約下さい。
　　または、当研究センター HP(www.wmi-hyogo.jp、
　　右記QR コード) の予約フォーム、
　　email(info@wmi-hyogo.jp) をご利用ください。

プログラム

主催者あいさつ（兵庫県知事）

講演 1　「ヨーロッパにおけるイノシシの管理」
マルコ・アポロニオ教授 サッサリー大学（イタリア）

講演 2　「アメリカにおける野生化したブタの対策と管理体制」
マーク・スミス准教授 オーバーン大学（アメリカ）

講演 3　「韓国ソウルにおけるイノシシの出没の現状と課題」
リー・ウーシン教授 ソウル国立大学（韓国）

講演 4　「六甲山におけるイノシシ管理の現状と提言」
横山真弓准教授 兵庫県立大学 / 森林動物研究センター

パネルディスカッション
コーディネーター　林　良博
（森林動物研究センター研究統括監 / 国立科学博物館館長）

www.wmi-hyogo.jp